

■ 4-そう思う □ 3-どちらかといえば、そう思う □ 2-どちらかといえば、そう思わない □ 1-そう思わない

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に取り組んでいると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○道徳の授業を中心とした「豊かな心」の育成に全職員で取り組んでいる。特に、学校、学年行事等を通して道徳の実践力を高め、規範意識を育てることで集団づくりが高まっているため「3」「4」も割合が高い。今後も、子どもの実態を的確に把握し、道徳の授業の質の改善を図っていききたい。

2 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○いじめや問題行動の対応については、「1」「2」が1割である。いじめ未然防止に向けて、子どものよさや特性を伸ばす教育活動をさらに進め、いじめアンケート等の結果をふまえた教育相談体制の充実をさらに図っていききたい。

3 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○低学年及び高学年児童理解を毎月、位置づけ、家庭や関係機関と連携を図りながら、集団づくりを進め心の居場所づくりに取り組んでいる。月末の校内支援委員会を通して、校内支援体制の充実及び資質能力の向上を図り、効果を上げている。

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

4 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○学校経営方針にもとづいて、各学年、学級で基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けて、全職員で取り組んでいる。また、子どもの理解度に応じた少人数指導、教材の準備等を配慮して実践を行っている。また、生徒指導についても、組織で対応し、効果を上げている。

5 友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○本校では、校内研修で「自分自身の考えや確かな意見を持ち、他者に対応したり協力したりする子どもの育成」に取り組み集団づくりが向上している。今後もすべての教育活動において、互いのよさを認め合う支持的風土を学校全体で育てていききたい。

②学ぶ楽しさやわかる喜びのある教育の推進

6 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○保護者の「3」「4」の割合が9割である。教材研究や準備等、時間はかかるが、子どもの主体的活動が保障されるよう今後も学年部の教材研究・連携を深めて取組を進めていききたい。

③教職員の指導力向上

②学ぶ楽しさやわかる喜びのある教育の推進

7 ICT活用

先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○特別支援教育の視点から、視覚に訴える日常的な学習指導の充実を行っているため、「3」「4」が9割である。また、授業参観や学校行事等でICTを活用するなどして、保護者啓発もを行っているため、高い評価を得ている。今後も、教育効果を高めるためにICT活用を推進していききたい。

8 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○授業の達成度を高めるために、学年部で実態の把握を的確に行い、教材研究を協同で行い、PDCAのサイクルで授業の質の改善を行っていることが評価されている。今後は、家庭と自主学習等の内容の改善を行いながら、更にわかる授業づくりに努めていききたい。

9 児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○児童理解を毎月行い、家庭や関係機関と連携を図りながら、心の居場所づくりに取り組んでいる。また、校内支援委員会を通して、校内支援体制の充実及び資質能力の向上を図っている。児童自身が意欲的な学習態度を認識できるように達成感を味わえるよう取り組んでいききたい。

④健康づくりの推進

10 健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○年間指導計画に沿って、体育学習、スポーツタイム、外遊びの充実、長縄大会に向けての取り組みなど、全職員で取り組んでいる。今後は、家庭と連携して、進んで体づくりをする態度づくりを進めていく。また、学校保健委員会の充実を図り、食育についての啓発を行っていききたい。

⑤学習施設の整備

11 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○本校の校舎は、段差が多く、見通しがよくないためが多い。定期的な安全点検やけがの起きた場所の営繕活動を行うなど、再発防止に向けて取り組んでいる。今後は、危険を予測・予知し、危険を回避することができる子どもの能力を高め、安心・安全な生活ができるよう取り組む。

⑥子どもたちの安全・安心の確保

12 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○校内外での生徒指導上の問題が生じた場合、その都度、迅速かつ適切に指導の徹底を図り、事故防止に取り組んでいる。また、生徒指導の過去のデータや季節的な生徒指導上の問題など、早め早めの対応を行い、未然防止に取り組んでいる。

⑦家庭や地域社会の学校教育活動への参画・支援

13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○学校教育目標を達成するために、各学年ごとに共通実践し、授業参観や学校行事等で具現化を図っている。保護者の理解と協力を得るために、学年・学級便り等で学校での子ども様子を保護者に伝えている。今後も、家庭と連携して子どもに生きる力を身につけさせたい。

14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

保護者
児童
教職員

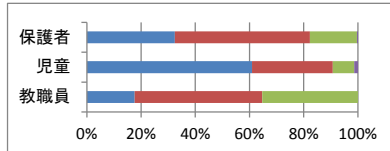
0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】○教育カレンダーを家庭や地域に周知し、授業参観等の参加しやすい環境づくりを行っている。また、PTA役員との連絡体制を整えて、情報の共有化を図り、徳・知・体の調和のとれた子どもの育成を見通しを持って取り組んでいくようにしたい。

本校の教育

15 基本的な生活習慣の育成

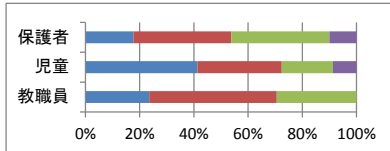
子どもは家庭や地域でよく挨拶していると思いますか。



【学校から】○保護者の「2」が2割近くを占めていて、子どもたちとの意識に差がある。家庭や地域でのあいさつ運動は高まりつつあるが、個人差が大きいため、家庭と連携した指導の徹底を図る必要がある。来校者の外部評価では、「気持ちのよいあいさつをする子どもが多い」との評価を得ている。

16 読書についての関心・意欲

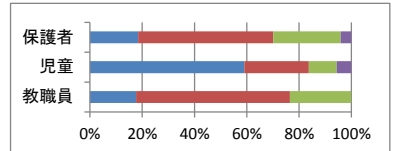
子どもは家庭でよく読書していると思いますか。



【学校から】○読書活動を充実させるために、家庭学習における音読、保護者による読み聞かせ活動、読み聞かせボランティアによる読み聞かせ、司書補等による工夫・改善がなされている。今後も、教科学習で読書意欲を高め、調べ学習等の充実を図っていきたい。

17 家庭学習の習慣化

子どもはよく家庭学習をしていると思いますか。



【学校から】○家庭学習の定着を図るために、各学年部で発達段階に応じた学習内容を中心に取り組んでいる。また、基礎的基本的な知識・技能を定着を図るために、家庭と連携して取り組んでいきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行う。
- 毎時間の授業の充実のための教材開発を続けていくとともに、学びノートを中心とした学力充実と楽しい状況の子どもの生活習慣の確立など、個に応じた学習のさらなる徹底を図っていく。
- 学校の職員や児童会だけではなく、PTAや地域の諸団体と連携しながら基本的な生活習慣のキャンペーンの実施などを通して、挨拶、マナーなどの規範意識を育てる指導の徹底を図る。
- 安全、食育、総合・教科学習の面から、保護者・地域との人材交流、情報の共有をさらに進め、地域に根ざした教育をさらに充実させる。特に、食育については、「学校安全保健委員会」で、栄養教諭の講話等を行い、保護者と共に「食べる」ことについての意義を再認識し取り組んできた。また、生活科・総合で「1・2年 さつまいも栽培」「3年 なすび栽培」「5年 稲栽培 もちつき大会」等の育てる、調理する、食べるといった一連の活動をさらに計画的に位置づけ、食育の充実を図ってきたい。
- インフルエンザ等に対応するために、手洗い・うがいなど基本的な生活習慣の確立を図る。また、心身共に健康な生活を送れるように、より一層の工夫に努めたい。
- 全国標準学力調査（NRT調査）を受けて、より児童の学力を分析し、領域ごとにきめ細かな指導の工夫改善に努め、確かな学力の定着を図りたい。
- 体力向上として、年間指導計画を見直したり体力づくり月間を設けたりして子どもたちの体力向上に向けて取り組んだ。その結果、どの学年も反復とびや20mシャトルランの種目は全国の平均を上回り、瞬発力や機敏性が向上している。今後、さらに走力や投力を向上させるために取り組んでいきたい。

学校関係者評価

- 公開授業や音楽会などの学校行事を通して、子どもたちが楽しく学校生活を送っていることがよく伝わってくる。学校教育目標では、保護者・児童・教職員ともに「3」「4」の割合が昨年度よりも伸びており、学校の取り組みの成果が評価されていると言える。
- 教科指導等では、一人一人のニーズに応じた教育活動の工夫が見られた。10月の道徳の授業参観でも先生方の工夫や努力が子どもたちの力を伸ばしていることが実感できた。
- 道徳、心の教育、人権教育では、校内研修を通して子どもたちが「豊かに関わりあうこと」ができており、取り組んできたことが、人権教育や子どもフォーラムでの子どもの姿につながっている。
- 生徒指導・教育相談では、あいさつの励行や規範意識の醸成を図ってきたが、さまざまな事情を抱えている子どもがおり、細やかな配慮をしながらすべての子どもたちが心豊かに育ってくれるようにしていきたい。飽田東小校区では地域の協力体制が充実しているのでこれまで以上に連携・協力を深めていきたい。
- 健康教育・安全では昨年度の体力向上推進の取り組みが生きているので、今後の子どもたちの活動につなげてほしい。防犯・交通安全については地域と一体になり進めていきたい。
- 家庭・地域との連携は子どもたちの成長を願い学校を中心としていっそうの連携・協力をしていってほしい。